

講演者略歴

秋山 昌廣

(海洋政策研究財団会長)

東京大学法学部政治学科卒業後、大蔵省入省。在カナダ日本国大使館参事官、大蔵省主計局主計官、奈良県警察本部長、東京税関長、防衛庁防衛事務次官、米国ハーバード大学客員研究員を歴任。現在、海洋政策研究財団会長。

石 弘之

(東京農業大学教授)

環境ジャーナリスト、環境問題研究者。東京大学卒業後、朝日新聞社編集委員を経て東京大学大学院教授、駐在ザンビア特命全権大使、国連環境計画上級顧問、国連開発計画上級顧問等の要職を歴任。国連ボーマ賞、毎日出版文化賞、グローバル 500 賞(国連環境計画)を受賞。現在、東京農業大学教授。

ウラミラ・ラッグ

(パシフィック・ウェーブ・ネットワーク、コーディネーター／フィジー)

デイリーポスト新聞(フィジー)、フィジータイムス、クック諸島ニュース等のメディア各誌で編集・記者として活躍後、現在は、太平洋島嶼国のローカルメディアの啓蒙を行うパシフィック・ウェーブ・ネットワークでコーディネーターのほか、ABCのクック諸島特派員をつとめる。

ジェーン・モギナ

(ママ・グラウン保全基金事務局長／パプアニューギニア)

2002 年オーストラリア国立大学より資源管理分野にて博士号取得。約 20 年間パプアニューギニア大学にて教鞭を取り、自然物理科学部副学部長をつとめた後、2006 年よりママ・グラウン保全基金副事務局長。メラネシア地域の伝統的な部族間の土地・海洋資源保有権に着眼し、ローカルコミュニティのエンパワメントによる生物多様性・環境保全に取り組む。

チャーリン・メルサイ

(ミクロネシア・チャレンジ地域調整官／パラオ)

コロール州政府法令執行・保全課にて沿岸資源管理オフィサー、ベラウ国立博物館にて民族植物学者および自然史セクション長等を経験後、現在は、パラオにおけるミクロネシア・チャレンジ地域調整官のほか、パラオ国際珊瑚礁センター(PICRC)にてリサーチャーとして活動する。

ナオミ・アウヴァエ

(サモア天然資源・環境省開発企画官／サモア)

サモアにおける固形・液体廃棄物による海洋汚染の現状や影響、それに対する政府レベルでの主な取り組みを発表する。